

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370090			
科目名	特別研究	年次配当	2年次
担当者	専任教員	開講時期	通年
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要	
住居・デザイン専攻の専門教育科目のなかで、より専門的に学びたい分野を選び、テーマを決めて取り組む。成果は論文、作品、資格取得などのかたちにする。担当教員の各人の必要に応じた指導や助言で、効率的な能力向上を図る。	
到達目標	
住宅計画について学習してきた事項を基に、自ら考えたテーマに主体的に取り組み、成果に反映する。	
教材	
教科書(テキスト)	テキスト以外
評価方法	
提出物70%、授業態度30%	
学生に対するメッセージ(準備学習等)	
2年間で専門的な内容を深く学ぶのは困難です。この科目は、各人の興味・関心のある分野や、将来に必要な分野にねらいを定めて、1年間取り組み、「このことなら私にまかせて!」といえる力を獲得しましょう。	

授業計画	
担当教員	テーマ (例)
中村光彦	住生活の変化が住宅の形態におよぼす影響の例。現代庶民住宅の発展の新しい歴史。木造建築細部の研究。
河村壮一郎	色彩の心理的効果について実験・調査を通して理解を深める。
尾崎せい子	「街並み、歴史的環境を保全する。」というテーマで、地方小都市におけるまちづくりを伝統的建造物群保存地区において、実測調査し分析する。
前田夏樹	市及び県の美術展覧会への入選・受賞レベルの作品制作。地域交流の一環としての作品作り(和紙の照明)とそれを使ったウィンドウディスプレイ
田上重雄	「産業支援としてのデザインの変遷と人材」をテーマとして県内産業デザインに係る調査研究。 地域の素材や技術を活かしたデザイン研究(インテリア用品、クラフト商品など)

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370082			
科目名	カウンセリング概論	年次配当	2年次
担当者	河村 壮一郎	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	ピアヘルパー資格必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

主にピアヘルパーを目指している人向けの内容です。カウンセリングの概要や具体的なすすめ方について解説します。授業の一部には体験的な演習が含まれます。

到達目標

ピアヘルパーとして必要なカウンセリングに関する理論と実践を身につけ、青年期の諸課題に対してピアヘルパーが援助する役割を理解します。

教材

教科書(テキスト) テキスト以外
 「ピアヘルパーハンドブック」
 日本教育カウンセリング協会編 (図書文化)

評価方法

定期試験80%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

ピアカウンセラーになるには、ピアヘルピングについてだけでなくカウンセリング全体を把握することが必要です。また、青年期の諸課題について日常経験と結びつけて理解してください。また、グループでコミュニケーション練習する演習を行います。複数学科での合同授業になりますので、他学科の学生との交流も行います。

授業計画

- 1 カウンセリングの定義と必要性
- 2 カウンセリングの種類①領域・トピック・方法・目的
- 3 カウンセリングの種類②精神分析、行動理論、来談者中心療法
- 4 カウンセリングの方法①受容
- 5 カウンセリングの方法②支持
- 6 カウンセリングの方法③非言語的方法
- 7 ピアヘルピングのプロセスとその関係領域
- 8 ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点
- 9 学業領域の課題とピアヘルパーの活動
- 10 進路領域の課題とピアヘルパーの活動
- 11 友人領域の課題とピアヘルパーの活動
- 12 グループ領域の課題とピアヘルパーの活動
- 13 関係修復領域に対するピアヘルパーの活動
- 14 心理領域に対するピアヘルパーの活動
- 15 心理領域に対するピアヘルパーの活動

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370110			
科目名	建築施工論	年次配当	2年次
担当者	倉恒 俊一	開講時期	前期
所属	非常勤講師	資格選択区分	1級建築士受験資格資格必修 2級建築士受験資格資格必修 インテリアプランナー受験登録資格資格選択必修 商業施設士補資格選択
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

木造、鉄筋コンクリート造などの住宅等の建築物についての施工計画、施工法を段階的に学ぶと共に、積算の基本について系統的に学びます。

到達目標

施工計画、施工法の基礎と積算の基本について、具体例を踏まえて理解します。

教材

教科書(テキスト)

二級建築士試験対策講座「建築施工」
(社)全日本建築士会編

テキスト以外

建材サンプル、カタログ、ビデオテープ、実例図面および見積書等

評価方法

試験80%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

良い企画、設計ができて、それを実現させるためには良い施工が必要であり、また、その費用を把握しておくことが必要です。建築の施工、積算(見積り)について具体的に学びます。

授業計画

- 1 施工計画、施工管理
- 2 土工事、基礎工事
- 3 鉄筋工事、型枠工事
- 4 コンクリート工事
- 5 鉄骨工事
- 6 木工事
- 7 防水、屋根工事
- 8 左官工事、タイル工事
- 9 内装工事、建具工事
- 10 設備工事、外装工事
- 11 積算、見積りとは
- 12 数量の拾い方、単価の決め方
- 13 積算作業(1)
- 14 積算作業(2)
- 15 見積書作成

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370077			
科目名	構造デザイン	年次配当	2年次
担当者	川端 康洋	開講時期	前期
所属	非常勤講師	資格選択区分	1級建築士受験資格資格必修 2級建築士受験資格資格選択 インテリアプランナー受験登録資格資格選択必修 商業施設士補資格選択
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

建築（住居）の構造設計に必要な材料・構造の力学的な基本事項を、教科書・プリント教材等を用いて易しく説明し、演習をしながら理解度を見て授業を進めます。

到達目標

1・2級建築士の構造の受験勉強ができる程度の基礎力を身につける。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
「図説 やさしい構造設計」 浅野清昭 学芸出版 ¥2,800+税	必要に応じて、ビデオ教材、パワーポイント等を用いる。

評価方法

試験50%、レポート20%、演習30%により総合評価する。

学生に対するメッセージ（準備学習等）

限られた時間で1・2級建築士の構造に必要な基礎力を養うためには、授業内容の復習が大切です。毎時間、演習を行います。演習の最後には、小テストがありますので、頑張りましょう。

授業計画

- 1 応力と歪、材料の力学的性質、ビデオ教材：課題(レポート)
- 2 曲げを受ける部材の設計(1)：曲げモーメントと曲率、曲げ応力度とせん断応力度
- 3 軸力を受ける部材の設計「引張材、圧縮材の座屈、許容応力度」
- 4 曲げを受ける部材の設計(2)：曲げ材の座屈、許容曲げ応力度：課題(レポート)
- 5 軸力と曲げを受ける部材の設計「2軸曲げ、断面の核、主応力」
- 6 構造デザインと建築構法：「RC構造と鋼構造の構造計画」
- 7 鋼構造部材の設計(1)「引張材、圧縮材、接合」の設計、ビデオ教材
- 8 鋼構造部材の設計(2)「梁と継手」の設計
- 9 鋼構造部材の設計(3)「柱と柱脚と仕口」の設計：課題(レポート)
- 10 RC部材の設計(1)「鉄筋とコンクリート、RC部材」の性質
- 11 RC部材の設計(2)「RC梁とスラブ」の設計
- 12 RC部材の設計(3)「RC柱」の設計
- 13 RC部材の設計(4)「基礎」の設計：課題(レポート)
- 14 耐震構造の計画：「耐震診断、耐震設計の考え方」、ビデオ教材
- 15 まとめ

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370113			
科目名	建築環境工学	年次配当	2年次
担当者	十倉 毅	開講時期	前期
所属	非常勤講師	資格選択区分	1級建築士受験資格資格必修 2級建築士受験資格資格必修 インテリアプランナー受験登録資格資格選択必修 商業施設士補資格選択
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要	
<p>建築の内外における空気・熱・日射・音などの物理現象をできるだけ平易に解説するとともに、建築設備の概要を講義する。また、各種の環境測定機器を実際に手に取ることにより、建築環境への興味、および機器操作方法を学ぶ。</p>	
到達目標	
<p>住まいの環境を形成する空気・熱・日射・音などを学ぶことにより、それらの環境要素に配慮した住まいづくりの工夫、また環境への負荷をできるだけ軽減し、自然を有効活用する方法を修得する。 (目標：2級建築士試験における環境・設備問題の正答率80%を得るレベル)</p>	
教材	
教科書(テキスト)	テキスト以外
「はじめての建築環境」(学芸出版社)	必要に応じてプリント配布
評価方法	
定期試験40%、小テスト20%、授業態度40%	
学生に対するメッセージ	
<p>「住居環境と設備」のような分野の学問は、以前は「住宅設計計画原論」と呼ばれていました。しかし、近年の「建築設備」技術の発展にともなって、両者を統合する必要が生じ、1958年の日本建築学会大会において、これらを「建築環境工学」と総称することになりました。本講義では、空気・熱・光・音・風など自然への関心が、住まいの質を高める基本であることを示します。</p>	

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1 住まいの環境と設備の概論 2 気候と住まい 3 人体・住まいと熱環境 4 伝熱の基礎 5 湿り空気線図と結露 6 空気環境と換気 7 日照と日射 8 日影図 9 日照の調節 10 光環境の基礎 11 採光・照明 12 音環境の基礎 13 空気調和設備 14 給排水・衛生設備 15 環境と共生する住まい

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370084			
科目名	建築材料	年次配当	2年次
担当者	田中 千秋	開講時期	前期
所属	非常勤講師	資格選択区分	1級建築士受験資格資格必修 2級建築士受験資格資格必修 インテリアプランナー受験登録資格資格選択必修 商業施設士補資格選択
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要	
<p>建築に用いられる各種材料の種類とその特性、製造方法、建築材料と室内環境・地球環境について講述する。</p>	
到達目標	
<p>建築材料の利用方法とそれぞれの特性を理解する。具体的な利用例を示し、利用状況について認識する。また、各材料の耐久性、安全性、環境問題なども合わせて理解する。</p>	
教材	
教科書(テキスト) 使用しない	テキスト以外 パワーポイントによるスライドを用いて講義を進める。
試験60%、提出物10%、発表15%、授業態度15%	
学生に対するメッセージ(準備学習等)	
<p>約40万年の住居に起源を見る様々な建築物はわれわれの日常生活の場、コミュニケーションの場、スポーツ活動の場などに必要不可欠である。これらの建築に使用される多種多様な材料は、建築物の安全性・快適性を始めとして、それぞれ重要な役割をはたしている。中でも木質系の材料は身近で、親しみやすく種類も特に多い。各種建築材料の製造法、特性、利用状況を把握して理解することによって、建築材料に対する関心を深めてもらいたい。</p>	

<ol style="list-style-type: none"> 1 建築と材料に関する概要 2 建築工法と材料の種類 (I) 3 建築工法と材料の種類 (II) 4 建築構造用材料：セメント・コンクリート 5 建築構造用材料：セメント・コンクリート 6 建築構造用材料：金属系材料 7 樹木と木材：樹木・木材の種類 8 木材材料：木材の構造と性質 9 木質系建築材料：種類と製造方法 10 木質系建築材料：構造用材料 11 木質系建築材料：非構造用材料 12 接着剤と建築材料：接着剤の種類と特徴 13 接着剤と建築材料：接着加工方法と材料施工 14 各種建築材料の利用に関する今後の展望 15 まとめ

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370116			
科目名	建築設計実習 I	年次配当	2年次
担当者	尾崎 せい子	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	1級建築士受験資格資格必修 2級建築士受験資格資格必修 インテリアプランナー受験登録資格資格選択必修 商業施設士補資格選択
授業形態	実習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

1年次の建築設計製図をより洗練させるために、二級建築士の設計課題を中心に実践に即した建築計画を行う。身近な敷地を設定し、短時間でアイデアをスケッチや図面、模型等で表現する力を養う。そして特別研究や建築設計実習Ⅱにつながるような基礎的な計画力を養う。

到達目標

1年次の建築設計製図を基本にして、過去の二級建築士設計課題に適合した基本設計(平面計画)を行うことができる。

教材

教科書(テキスト)

「初めて学ぶ 建築コンペ・卒業設計」
(学芸出版)

テキスト以外

「新しい建築製図」(学芸出版)・「インテリアの計画と設計」小原二郎・加藤力・安藤正雄編(彰国社)

評価方法

提出物70%、授業態度30%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

卒業後、専門分野に就職する人は、特に学生らしい発想とアイデアの総まとめをしておく自信を持って対応できます。

授業計画

- 1 設計計画の概要、構想の組み立て方
- 2 設計課題①：木造小規模建築(住宅) 基本構想
- 3 設計課題①：木造小規模建築(住宅) 平面計画と空間構想
- 4 設計課題①：木造小規模建築(住宅) 外観構想
- 5 設計課題①：木造小規模建築(住宅) 作品提出と講評
- 6 設計課題②：木造小規模建築(併用住宅) 基本構想
- 7 設計課題②：木造小規模建築(併用住宅) 平面計画と空間構想
- 8 設計課題②：木造小規模建築(併用住宅) 外観構想
- 9 設計課題②：木造小規模建築(併用住宅) 作品提出と講評
- 10 設計課題③：非木造小規模建築 基本構想
- 11 設計課題③：非木造小規模建築 平面計画と空間構想
- 12 設計課題③：非木造小規模建築 外観構想
- 13 設計課題③：非木造小規模建築 作品提出と講評
- 14 最終提出課題の作成
- 15 まとめ

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370035			
科目名	建築CADⅡ	年次配当	2年次
担当者	尾崎 せい子	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	1級建築士受験資格資格必修 2級建築士受験資格資格選択 インテリアプランナー受験登録資格資格選択必修 商業施設士補資格選択
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

CADⅠで習得した内容をより深く学習すると同時に、断面や立面といった立体を表現することに必要な内容を学習する。

到達目標

CADで、立面・断面を描くためのコマンドを学習し、木造・RC造両方の建築製図を行うことができる。

教科書(テキスト)
初めての建築CAD

テキスト以外
作成した分を適宜配布する

評価方法

試験50%、提出物30%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

CADⅠでは、概念や操作方法そして木造平面図を学習したが、CADⅡでは立体を表現する事に必要な内容を学習する。

CADⅠ・Ⅱで、CADで建築図面を描く基本事項を身につけることができる。

授業計画

- 1 CADⅠの復習：(平面図を描く)
- 2 木造住宅断面図を描く①：断面を描くことに必要なコマンド、レイヤー管理
- 3 木造住宅断面図を描く②：断面図作成
- 4 木造住宅断面図を描く③：断面図出力
- 5 木造住宅立面図を描く①：立面を描くことに必要なコマンド、レイヤー管理
- 6 木造住宅立面図を描く②：立面図作成
- 7 木造住宅立面図を描く③：立面図出力
- 8 RC事務所平面図を描く①：平面図作成
- 9 RC事務所平面図を描く②：平面図出力
- 10 RC事務所断面図を描く①：断面図作成
- 11 RC事務所断面図を描く②：断面図出力
- 12 RC事務所立面図を描く①：立面図作成
- 13 RC事務所立面図を描く②：立面図出力
- 14 RC事務所平面図を描く③：配置図・概要作成
- 15 RC事務所平面図を描く④：配置図・概要出力

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370027			
科目名	福祉住居と施設	年次配当	2年次
担当者	藤原 賢治	開講時期	前期
所属	非常勤講師	資格選択区分	1級建築士受験資格資格選択 2級建築士受験資格資格選択
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

先ず、テキストに沿った講義にて基本的な知識を身につけてもらいます。そして、スライドにて実際の住宅改修例をいくつか見てもらい、次に福祉施設を現地スタッフの説明を聞きながら見学します。最後に、実習として5人程度のグループに分かれ、住宅改修のプランを作成し発表会をします。

到達目標

日本の住環境、福祉政策、福祉施設の現状を踏まえて、高齢者・障害者に住みやすい住居や、利用しやすい施設について学び、実施設計、計画に役立つ知識を習得する。

教材

教科書(テキスト) テキスト以外
福祉住環境コーディネーター検定3級テキスト
ハートビル法テキスト

評価方法

定期試験40%、実技10%、授業態度40%、発表提出物10%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

建築関連業界にとって、非常に厳しい時代ですが、21世紀のキーワードは、福祉・環境・情報・再生・交流だと考えます。高齢者・障害者いわゆる生活弱者にやさしい空間とは、すべての人・物に対してやさしい空間であるはず。それは、今後どんな社会・企業にとってもこれから必要不可欠なものとなるでしょう。

授業計画

- 1 講義の目的と日程説明、日本の現状、福祉の意味と考え方
- 2 高齢者の心身の機能と特性
- 3 関連専門職への理解と連携
- 4 福祉住環境整備の基礎知識
- 5 部屋別・場所別福祉住環境整備の仕方
- 6 住宅改造事例の紹介
- 7 校外実習、公共施設をチェック
- 8 グループに分かれ改造プラン作成実習
- 9 改造プラン作成実習、発表
- 10 高齢者介護のあり方と諸関連施策とサービス
- 11 福祉住環境整備の進め方
- 12 福祉住環境整備の基本技術
- 13 福祉用具の活用と住環境
- 14 福祉住環境整備の疾患・障害別応用技術
- 15 まとめ

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370016			
科目名	インテリアエレメント	年次配当	2年次
担当者	田上重雄・倉恒俊一・亀田弘之	開講時期	前期
所属	生活学科住居・デザイン専攻・非常勤講師	資格選択区分	1級建築士受験資格資格選択 2級建築士受験資格資格選択 インテリアプランナー登録受験資格資格選択必修 商業施設士補資格選択
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

建築空間におけるインテリアエレメント(カーテン/カーペット/家具/正銘など)の講義。実習は最小空間である自室のプランの図面化と20分の1モデルを作成し、プランニングから図面作成そして模型製作までのプロセスを習得する。
インテリアエレメントの代表として、家具の中から椅子(レッド&ブルーチェアー)のモデルを5分の1のスケールで作成することをとおして、家具の知識と家具図面の作成手法も習得する。

到達目標

2級のインテリア設計士受験の課題である、自室のプランを考え作成することによって、インテリアデザインに対する関心と意欲を育む。また、2次元の図面を読み取り3次元の椅子の模型を作成することによって設計プロセスを理解する。

教材

教科書(テキスト)

「インテリアの計画と設計」
小原次郎/彰国社

テキスト以外

プリントを準備(各自にファイルを準備して収納させ復習を促す。)パワーポイントスライドショーでインテリアエレメントの主役/椅子の世界を解説。
スレンチレンボード使用(私の部屋)、パルサ材使用(レッド&ブルーチェアー)

評価方法

実技40%、提出物40%、授業態度20%
基本的に試験はなく、実技の習得状況、課題の提出物の内容/授業態度が評価の対象となる。

学生に対するメッセージ(準備学習等)

簡単に課題をこなすのではなく、課題に楽しく取り組み、課題に対する資料の確認や参考となる本を読んだりして、デザインや建築に対しての関心や自分自身の可能性など一步一步育んでください。

授業計画

1	インテリアとは	田上重雄
2	インテリアの色彩	亀田弘之
3	家具と人間工学(1) 人体モジュールと家具	亀田弘之
4	家具と人間工学(2) 家具の分類とレイアウト	亀田弘之
5	インテリアの仕上げ材(1) カーテン	亀田弘之
6	インテリアの仕上げ材(2) カーペット	倉恒俊一
7	インテリアの仕上げ材(3) 素材のテクスチャー	倉恒俊一
8	インテリアの仕上げ材(4) 照明	倉恒俊一
9	室内模型作成(1)	倉恒俊一
10	室内模型作成(2)	倉恒俊一
11	室内模型作成(3)	倉恒俊一
12	家具図面の作図方法	亀田弘之
13	家具(椅子)模型作成(1)	亀田弘之
14	家具(椅子)模型作成(2)	亀田弘之
15	まとめ	田上重雄

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370037			
科目名	グラフィックデザイン I	年次配当	2年次
担当者	前田 夏樹	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	商業施設士補資格選択
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

美術とデザインが、多彩なマルチメディア社会に持つ重要性についての認識を持ち、理解を深める。また地域社会の産業デザイン・環境デザイン・視覚伝達デザインについて講義しながら、ビデオ・カラーライド・CG映像等により、デザインとグラフィックデザインについて理解を深めるとともに、多彩なデザイン表現手法(ビジュアルライズ技術)の実習も行う。

到達目標

- ・基礎デザイン I・II を基礎として、グラフィックデザインの分野における様々な表現方法を理解する。
- ・デザインの現場を知り、実際のデザインの仕事を学ぶ
- ・アナログとデジタルのそれぞれの表現方法を活かした作品制作を行う。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

参考書：「デザインの現場」などデザイン関連雑誌、グラフィックデザイン制作に参考となる画像や映像。その他、B1イラストレーションボード、アクリル絵具、マーカー、パステルなど彩色具

評価方法

実技30%、提出物50%、授業態度20%
基本的に試験はなく、課題の提出物の内容/授業態度が評価の対象となる。

学生に対するメッセージ(準備学習等)

基礎デザイン I・II での基礎的・基本的な知識・技能をさらに深め、ビジュアル・デザインとグラフィックデザインについて時間をみつけて課外に制作しよう。

授業計画

1	オリエンテーション・授業の概要とテキスト及び準備用具について	
2	美術展出品作品制作	
3	美術展出品作品制作	
4	美術展出品作品制作	
5	美術展出品作品制作	
6	グラフィックデザインの現場	特別講師
7	グラフィックデザインの現場	特別講師
8	グラフィックデザインの現場	特別講師
9	イラストレーション	
10	イラストレーション	
11	ブックカバー制作	
12	ブックカバー制作	
13	ブックカバー制作	
14	ブックカバー制作	
15	ブックカバー制作	

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370119			
科目名	プロダクトデザイン I	年次配当	2 年次
担当者	田上 重雄	開講時期	前 期
所 属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	演習		
単 位 数	2 単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

さまざまな企業活動の中で最もドラマティックであり、第三者にとっても関心が高いのは新商品を開発する作業ではないだろうか。生活用具や生活空間などプロダクトデザイン・クラフトデザインを中心に、具体的な物づくりに必要な商品企画関連知識と設計技法を学びます。

到達目標

- ・プロダクトデザインに必要な設計製図技法や表現手法の基礎を身につける。
- ・商品開発に必要なデザインコンセプトの立案、視覚化に必要な造形作業までのプロセスを理解する。
- ・モノづくりを進めるために必要な素材の知識と工具器具の操作法や加工技法を理解する。

教材

教科書(テキスト)

「プロダクトデザイン」日本インダストリアルデザイナー協会／(株)ワークス

テキスト以外

参考書：「アイデアドローイング」中村純正他／共立出版、教材：製図用具、モデリング用品など

評価方法

実技 50%、提出物 30%、授業態度 20%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

商品開発に関連することを学んでいる皆さんがもっとプロダクトデザインの知識を持っていれば物を作ることが楽しくなります。アイデアから商品化までの夢が描けます。積極的に自分のアイデアを具体的にデザインしましょう。

授業計画

- 1 オリエンテーション（授業概要説明、教材、必要とする用具）
 - 2 デザイン概論及び基礎実技（設計器具の使用法及び作図）
 - 3 プロダクトデザインの基礎実技（三面図作成技法）
 - 4 プロダクトデザインの基礎実技（三面図作成技法）
 - 5 プロダクトデザインの基礎実技（三面図と透視図法）
 - 6 プロダクトデザインの基礎実技（三面図と透視図法）
 - 7 モデリング手法（素材と加工仕上げ）
 - 8 モデリング手法（素材と加工仕上げ）
 - 9 モデリング手法（素材と加工仕上げ）
 - 10 デザインプロセスの実践（発想から具体化まで）
 - 11 デザインプロセスの実践（発想から具体化まで）
 - 12 デザインプロセスの実践（発想から具体化まで）
 - 13 デザインプロセスの実践（発想から具体化まで）
 - 14 デザインプロセスの実践（発想から具体化まで）
 - 15 デザインプロセスの実践（発想から具体化まで）
- 特別講師

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370041			
科目名	コンピュータグラフィックスⅢ	年次配当	2年次
担当者	前田 夏樹	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	商業施設士補資格選択
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

これまでに習得したコンピュータに関する知識や技術を元に、作品制作を行う。制作はこれまで使用してきたWindowsと並行してMacintoshを使用して行う。また、作品制作において必要なデザインの基本原則についても学習する。Photoshop検定に対応した学習も行う。

到達目標

- ・Photoshop検定3級合格に必要な知識と技術を身につける。
- ・デザインを行う際に必要なレイアウトなどの基本原則に関する知識を身につけ作品制作に活かす。

教材

教科書(テキスト)
デザイン・ルールズ

テキスト以外
フラッシュメモリ

評価方法

実技30%、提出物50%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

実際にオリジナル作品を制作することで、コンピュータに関する知識や技術はさらに高くなります。作品制作はこれまで学習してきた内容を生かすことができ、また大変自由度が高いため、コンピュータに関心のある多くの人にとって楽しいものとなるでしょう。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 Photoshop検定講座1
- 3 Photoshop検定講座2
- 4 Photoshop検定講座3
- 5 Photoshop検定講座4
- 6 ロゴデザイン1
- 7 ロゴデザイン2
- 8 テクスチャ、マップ制作
- 9 キャラクターデザイン
- 10 キャラクターデザイン
- 11 キャラクターデザイン
- 12 ポスターデザイン
- 13 ポスターデザイン
- 14 ポスターデザイン
- 15 ポスターデザイン

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370121			
科目名	WEBデザイン I	年次配当	2年次
担当者	河村 壮一郎	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	ビジネス実務士資格選択必修
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

ウェブサイトの作成に際して必要な、インターネットの仕組み、ウェブサイトの作成・運用方法、著作権問題などについて学習します。自分でウェブページを作成するために必要な手順を演習形式で学習します。

到達目標

課題を通じてウェブページを作成するために必要な言語（HTML、CSS）の基礎知識を習得し、それを利用できる方法を身につけること。また、インターネット全般とウェブデザインの心理効果を基本的に理解していること。

教材

教科書(テキスト) テキスト以外
「できるホームページ HTML&CSS入門 Windows
7/Vista/XP対応」 (インプレスジャパン)

評価方法

レポート20%、授業態度20%、発表20%、提出物40%

学生に対するメッセージ（準備学習等）

ウェブページの作成では、情報処理の技能だけでなくデザインや心理の知識や感性が重要です。インターネットを利用するユーザーから、それを構成・運用するクリエイターに変われることをめざして授業に臨んでください。

授業計画

- 1 インターネットについて
- 2 webページの閲覧
- 3 webページの検索
- 4 HTMLについて
- 5 HTML 文字の表示
- 6 HTML 文字のデザイン、レイアウト
- 7 HTML テーブル
- 8 HTML 画像
- 9 HTML ハイパーリンク
- 10 HTML フレームページ
- 11 HTML スタイルシート
- 12 HTML スタイルシートの活用
- 13 webサイトへの登録
- 14 webページと著作権
- 15 インタラクティブなウェブページ

生活学科 住居・デザイン専攻 シラバス

370105			
科目名	DTP演習	年次配当	2年次
担当者	高田 雪枝	開講時期	前期
所属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	10名

授業概要

デザイナーとして知っておかなければならない、実社会で役立つDTP知識を中心に、デザインに関わる仕事の流れや将来プロとして独立を目指すための知識の習得を目指します。なぜこうなるのか、なぜこうする必要があるのであるのかを、講義と実技を交えて自分の目で確かめながら進めます。

到達目標

DTPの基本的知識を習得し、デザインするだけでなく、印刷、後加工などの仕組みや出力データ作成などを理解することができる。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

チェックの神様 (TDA)

評価方法

実技30%、テスト(ノート作成も含む)50%、授業態度20%

学生に対するメッセージ

アナログからデジタルに移行してからというもの、納期短縮のため仕事の工程が省かれ、デザイナーは特に「デザインする」だけで終わらなくなってきています。そのため、「デザイン力」プラスαが求められています。学生の間に、他の人にはない、自分だけの特別な「プラスα」を見つけて、確実に自分のものにしていってください。また、自分の力でメモをまとめていくことも、社会人としては重要なポイントとなります。どの仕事につくにしてもこれは大切なことですので、今のうちにしっかり訓練して、いざというときにのために役立ててください。

授業計画

- 1 デザイナーの仕事について
- 2 DTPの歴史とソフトバージョン ワークフローとデータトラブルの現状
- 3 DTP基礎 各社データ入稿指示書について
- 4 DTP基礎 印刷の基礎知識
- 5 DTP基礎 画像データの加工
- 6 DTP基礎 イラストレータを使つてのデータ作製
- 7 DTP基礎 実践に必要な基礎知識
- 8 DTP基礎 デザインして作る
- 9 DTP基礎 デザインして作る
- 10 DTP基礎 デザインして作る
- 11 チェックの神様 データチェックについて
- 12 チェックの神様 データチェックについて
- 13 チェックの神様 データチェックについて
- 14 チェックの神様 テキストに従い、データチェック
- 15 チェックの神様 まとめ

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370100			
科目名	絵画	年次配当	2年次
担当者	前田 夏樹	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	3名

授業概要

油彩画による作品制作を行なう。初めて油彩画をはじめの人に向け材料の説明から、基本的な描き方までを行なう。最もポピュラーな表現方法のひとつである油彩画を学習し、作品を制作することで自身の表現の幅を広げ、今後の作品制作の糧とする。また生涯学習といった意味でも重要な意味をもつものと考え、生涯を通して作品制作に携わる基礎をつくる。

到達目標

- ・油彩画制作に必要な材料に関する知識や制作における技法を身につける
- ・様々な表現方法を試みることにより、自分にあった表現を見つける。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外
油彩セット

評価方法

実技30%、提出物50%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

油彩画に興味があっても、なかなかきっかけがなく始められていないという人は多いと思います。老若男女を問わず多くの人に親しまれる油彩画の魅力をぜひ自身で体験してみてください。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 材料の説明
- 3 作品制作(静物)
- 4 作品制作(静物)
- 5 作品制作(静物)
- 6 作品制作(静物)
- 7 作品制作(静物)
- 8 作品制作(風景)
- 9 作品制作(風景)
- 10 作品制作(風景)
- 11 作品制作(風景)
- 12 作品制作(風景)
- 13 作品制作(風景)
- 14 作品制作(風景)
- 15 作品制作(風景)

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370102			
科目名	木工	年次配当	2年次
担当者	福田 豊・前田 夏樹	開講時期	前期
所属	非常勤講師 生活学科住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要 1～ 8 木の器を製作 9～15 一枚の板から箱を製作	
到達目標 ・自然素材の特徴と大切さを知る。 ・オリジナルデザインと完成作品との一致に努力する。 ・作る事を充分楽しむこと。	
教材 教科書(テキスト)	テキスト以外 作業工程のパネル 木の器 用 箱 用
評価方法 実技・提出物90% 授業態度+10点(最高)加算	
学生に対するメッセージ(準備学習等) 全力で一つの事にうちこむひたむきさが形となって、結果がその作品に表われるのでしっかり集中して取り組む事を実行してほしい。	

授業計画	
1 木の器の製作 木工芸について 2 3 各自のペースで 4 作業 5 節目ごとに説明 6 7 8 作品の完成とレポート提出	1 今回作る作品の説明(木工芸について「美の人脈」を使用) 2 作業の手順 3 材料の説明 4 木の話(性質等、あつかい方) 5 ①デザイン②木取③ミシンのこ④彫る⑤磨く⑥塗る ①～⑥実技と説明道具の使い方等
9 一枚の板から箱を製作 10 11 各自のペースで 12 作業 13 節目ごとに説明 14 15 作品の完成とレポート提出	1 材料の説明 箱のイメージ図 2 木取 寸法の割付け 3 切断と組立 4 装飾と塗り 器と箱の評価

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370103			
科目名	陶芸	年次配当	2年次
担当者	小原 雅也	開講時期	前期
所属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

作陶を体験してみる。

到達目標

やきものの種類や出来上がる工程を知る。
作陶を通して、物を作る喜びを知るとともに、日常生活を個性豊かで楽しいものにしてほしい。

教材

教科書(テキスト)
なし

テキスト以外
粘土

評価方法

実技50%、提出物25%、授業態度25%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

やきものを見る、使う、作る楽しさを体験しよう。

授業計画

- 1 講義 やきものの種類を知る
- 2 " やきものの出来るまでの工程を知る
- 3 実習 土にふれてみる(土ねり)
- 4 "
- 5 "
- 6 " " (表現)
- 7 "
- 8 " 成形
- 9 "
- 10 "
- 11 "
- 12 " 仕上げ
- 13 "
- 14 "
- 15 "

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370075			
科目名	ビジネス実務演習Ⅱ	年次配当	2年次
担当者	岩井 和由	開講時期	前期
所属	生活学科 情報・経営専攻	資格選択区分	ビジネス実務士資格必修
授業形態	演習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	10名

授業概要	
ビジネス実務概論で学んだことを基礎として実務の様々な事項を演習という形で確認学習を行う。	
到達目標	
最低限の実務能力を取得する。	
教材	
教科書(テキスト)	テキスト以外
秘書実務	適宜配布
評価方法	
定期試験50%、小テスト50%	
学生に対するメッセージ(準備学習等)	
頭のなかで理解したことと実際に行くことは異なる。実務上必要とされる様々な知識を実際にやってみることでいっそうの理解ができ身に付くことになる。	

授業計画		
1	服装と身だしなみ	
2	接遇の基礎	
3	電話の対応	
4	スケジュール管理	
5	出張業務	
6	会議・会合・行事	1. 会議の種類
7	会議・会合・行事	2. 会議の準備・運営・議事録
8	会議・会合・行事	3. 会社の行事
9	仕事と文書	1. ビジネス実務と文書
10	仕事と文書	2. 法律文書
11	仕事と文書	3. 会計文書
12	仕事と文書	4. 会計業務
13	慶弔業務	
14	文書作成実習	
15	まとめ	

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370087			
科目名	キャリアプラン	年次配当	2年次
担当者	河村 壮一郎 他	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	講義		
単位数	2単位 必修		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

短期大学卒業後の進路選択の内容や方法について理解を深めます。就職活動に向けた取り組みを実践的に練習し、専門分野を生かした進路を検討します。また、就職試験に対応できる実力を身につけます。

到達目標

卒業後の進路を選択するために今後の人生計画を立て、就職活動の現状と課題について学習します。また、自己の行動や性格の特徴を深く理解し、それを他者に表現できる能力を身につけます。

教材

教科書(テキスト)	テキスト以外
「勝つための就職ガイド NEW SUCCESS」 ウイネット	授業中に配布するプリント

評価方法

レポート40%、小テスト40%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

卒業後の進路はこれからの人生にとって重大な選択になるでしょう。しかし、決断を先のばしにしないで、前向きに取り組んでください。また、授業では発表の機会や面接の練習を設けます。

授業計画

1 導入	河村壮一郎
2 住居分野でのキャリアプラン	中村光彦
3 デザイン分野のキャリアプラン	田上重雄
4 自己分析1 職業適性	河村壮一郎
5 自己分析2 職業興味	河村壮一郎
6 自己分析3 人生設計	河村壮一郎
7 自己分析4 自己長所	河村壮一郎
8 他己分析	河村壮一郎
9 キャリア情報の入手	河村壮一郎
10 就職活動の実際1 履歴書の作成	河村壮一郎
11 就職活動の実際2 エントリーシート	河村壮一郎
12 就職活動の実際3 試験	河村壮一郎
13 就職活動の実際4 作文	河村壮一郎
14 就職活動の実際5 面接、マナー	河村壮一郎
15 内定決定後の活動	河村壮一郎

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370031			
科目名	学外実務実習	年次配当	2年次
担当者	専任教員	開講時期	前期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	実習		
単位数	1単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要	
<p>学外の建築設計事務所・建築関連の施工会社の設計部、デザイン会社・印刷会社のデザイン部等で実務に参加させていただき、建築がどのように設計され、施工されていくかその仕組みを知ったり、デザイン会社等の仕事の様子を知る。将来専門職に進むことを希望する者にとっては貴重な体験である。</p>	
到達目標	
<p>社会における実務体験を通して、教室で書物等で学んだ知識や、業務の難易度を確認し、コミュニケーション力を身につける。</p>	
教材	
教科書(テキスト)	テキスト以外 資料配布
評価方法	
提出物80%、授業態度20%	
学生に対するメッセージ(準備学習等)	
<p>実社会での生の体験により、机上の学習で充分把握できなかった知識がより鮮明に理解できます。同時に進路を決める際の参考ともなります。</p>	

授業計画	
1	学外実務実習の研修内容と心構えについて
2	各企業での研修ならびにその記録とレポート作成
3	〃
4	〃
5	〃
6	〃
7	〃
8	〃
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	〃
15	学外実習についての相互報告とまとめ

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370001			
科目名	生活論	年次配当	2年次
担当者	河村 壮一郎	開講時期	後期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	インテリアプランナー受験登録資格資格選択
授業形態	講義		
単位数	2単位 必修		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

他者との結びつきは私たちの生活や心の中でも重要な位置を占めています。授業では、社会心理学や臨床心理学等で得られた知見を解説しながら、自己や対人場面で身近に起こっている現象を見直し、エクササイズを含めて理解を深めます。

到達目標

生活場面での人間関係の知識を習得し、生活者として自己の人間関係の理解を深め、生活を豊かにするための条件を理解します。

教材

教科書(テキスト) テキスト以外
 「人間関係づくりトレーニング」 星野欣生
 (金子書房)

評価方法

レポート60%、小テスト20%、授業態度20%

学生に対するメッセージ (準備学習等)

人間関係を充実させることは、人生での価値を増やすことにもなります。自分自身の人間関係を確認し、発展する機会を見つけてください。

授業計画

- 1 生活の中の人間関係
- 2 自己概念と人の成長
- 3 価値観の相違
- 4 日常生活での思い込み
- 5 コミュニケーション
- 6 コミュニケーションの実際
- 7 サインとしてのからだ
- 8 感情表出
- 9 共感的理解
- 10 葛藤とのつきあい方
- 11 自己開示とフィードバック
- 12 アサーション
- 13 社会の中のマナー
- 14 人間関係の発達
- 15 まとめ、質問、討議

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370083			
科目名	人間関係演習	年次配当	2年次
担当者	河村 壮一郎	開講時期	後期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	ピアヘルパー資格必修 ビジネス実務士資格選択必修
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

ピアヘルパーとして学生間で相互に援助するはたらきかけについて理解を深め、また実践できるように練習します。授業の前半ではピアヘルパー資格取得をめざしたトレーニングも行います。

到達目標

ピアヘルパーとして仲間の援助を行うために必要な知識を身につけます。また、ヘルピングのためのコミュニケーション技法を習得します。

教材

教科書(テキスト) テキスト以外
 「ピアヘルパーワークブック」
 日本教育カウンセリング協会編 (図書文化)

評価方法

定期試験80%、授業態度20%

学生に対するメッセージ (準備学習等)

授業ではピアヘルピングの演習を行います。アットホームな雰囲気の中で、受講者同士がうち解け合い、まずは自己の気持ちを表現することや他者に話を理解されることを実感してください。なお、この授業の受講には2年前期の「カウンセリング概論」の単位を取得していることが前提になります。

授業計画

- 1 人間関係におけるカウンセリングスキルとピアヘルパーの心がまえ
- 2 カウンセリング理論①
- 3 カウンセリング理論②
- 4 カウンセリング理論③
- 5 言語的技法
- 6 非言語的技法
- 7 ピアヘルピングでの解決方法
- 8 青年期の課題 ①
- 9 青年期の課題 ②
- 10 ピアヘルパー重要用語
- 11 構成的グループエンカウンター
- 12 エンカウターのエクササイズ
- 13 ロールプレイによる総合演習①
- 14 ロールプレイによる総合演習②
- 15 ロールプレイによる総合演習③

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370114			
科目名	建築設備	年次配当	2年次
担当者	守山 康仁	開講時期	後期
所属	非常勤講師	資格選択区分	1級建築士受験資格資格必修 2級建築士受験資格資格必修
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要	
<p>建築基準法に定義された「建築設備」…【建築物に設ける電気、ガス、給水、排水、換気、暖房、冷房、消火、排煙若しくは汚物処理の設備又は煙突、昇降機若しくは避雷針】を中心とし、建築基準法ばかりではない広義の建築設備についての授業を行なう。</p>	
到達目標	
<p>現代建築における建築設備のもつ意味と一般的な建築設備には何があるのかを理解することができる。また、建築設備が時代と共にどのように変化し、またどのような方向に進もうとしているのかを、新技術の開発と併せて考えることができる。</p>	
教材	
教科書(テキスト)	テキスト以外
「初めての建築設備」(学芸出版社)	必要に応じてプリント配布
評価方法	
試験50%、レポート50%	
学生に対するメッセージ(準備学習等)	
<p>建物の中で建築設備は人間に置き換えると神経・血管・循環器等であり、建築は肉と骨にたとえられる。日常で自分が生活している建物にどのような建築設備があり、その中で目に見える部分と、目に見えない隠れた部分が有る。建築設備がどのような役目を持っているのかを、これから建築に携わる一人として学んで欲しい。</p>	

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1 建築設備の概論 2 空気調和設備 室内気候に関する基礎知識 3 空気調和設備 空調負荷の概要 4 空気調和設備 空調設備の計画と方式 5 空気調和設備 消火設備の概要 6 給排水・衛生設備 水に関する基礎知識 7 給排水・衛生設備 給湯設備の概要 8 給排水・衛生設備 排水処理設備の概要 9 給排水・衛生設備 排水設備の概要 10 給排水・衛生設備 給水設備の概要 11 給排水・衛生設備 衛生器具の概要 12 電気設備 電気に関する基礎知識 13 電気設備 照明に関する基礎知識 14 電気設備 照明計画と方式 15 電気設備 情報通信設備・昇降機設備

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370115			
科目名	建築材料実習	年次配当	2年次
担当者	中村 光彦	開講時期	後期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	1級建築士受験資格資格必修 2級建築士受験資格資格必修
授業形態	実習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要	
建物を構成している梁・柱・壁などの主要構造体を成している部材の性状や、それらを構成している各種素材の強度や剛性などの材料特性を学び、実験によってそれらの性状を確かめる。	
到達目標	
実習を通して、協調性を養うと共に、自立的に遂行する能力を身につける。構造・材料の特性を理解し、実験結果から適切に考察する能力を養い、以上に係わる二級建築士学科試験問題が解ける程度。	
教材	
教科書(テキスト) 使用しない	テキスト以外 適宜プリントを配布、実物提示をする
評価方法	
提出物70%、授業態度30%	
学生に対するメッセージ(準備学習等)	
これまで机上で学んできた構造材料やその強度・剛性などの性状を確認し、それぞれの材料のもと特性について理解を深めましょう。そして安全に作業ができるように気をつけましょう。	

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1 建築と材料に関する概要 2 建築構造用材料：木材 3 建築構造用材料：木材 4 建築構造用材料：セメント・コンクリート 5 建築構造用材料：セメント・コンクリート 6 建築構造用材料：鋼材 7 建築構造用材料：鋼材 8 コンクリート実験 試験体作成 9 コンクリート実験 試験体脱型 10 コンクリート実験 試験体脱型 11 コンクリートの1週強度圧縮試験 12 振動性状・居住性能に関する理解 13 学外見学 構造安全や防災に関する施設見学 14 コンクリートの4週強度圧縮試験・鉄筋の引張試験 15 構造安全の理解とまとめ

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370117			
科目名	建築設計実習Ⅱ	年次配当	2年次
担当者	中村 光彦	開講時期	後 期
所 属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	1級建築士受験資格資格必修 2級建築士受験資格資格必修 インテリアプランナー受験登録資格資格選択必修 商業施設士補資格選択
授業形態	実習		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要	
鉄筋コンクリート造の建築物について、建築を構成する要素、部材、性能を機能と空間を理解しながら学ぶ。配置・平面・立面・矩計図等、実施設計図面についても学ぶ。	
到達目標	
建築計画について、立地条件、基本的な与条件について、自ずから考え、設計に具体的にまとめていく能力を養い、二級建築士設計製図試験に合格に必要な能力を身につける。	
教材	
教科書(テキスト) 「新しい建築製図」(学芸出版) 「インテリアの計画と設計」(彰国社)	テキスト以外 資料配布
評価方法	
提出物70%、授業態度30%	
学生に対するメッセージ(準備学習等)	
基本構想から実施設計図に至るまでの工程を学び、卒業後の就職先で自信を持って対応できるように、がんばってみましょう。	

授業計画	
1	設計計画の概要、構想の組み立て方
2	エスキス 基本構想
3	〃 配置・ブロックプランの構想
4	〃 平面プラン1
5	〃 平面プラン2
6	〃 断面と室内空間
7	〃 立面と外部空間
8	実施設計 配置図
9	〃 平面図1
10	〃 平面図2
11	〃 断面図
12	〃 立面図
13	〃 矩計詳細図
14	〃 パース又は模型
15	〃 まとめ、講評

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370028			
科目名	福祉とユニバーサルデザイン	年次配当	2年次
担当者	尾崎 せい子	開講時期	後期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	1級建築士受験資格資格選択 2級建築士受験資格資格選択
授業形態	講義		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

テキストを中心に用いながら、実際にモデルルーム見学や体験授業を通して、高齢者や障害者の身体的状況や行動について学び、ユニバーサルデザインの基本的理念とその実践方法を身につける。

到達目標

ユニバーサルデザインとは、あらゆる使い手に快適で使いやすい環境やモノを提供することを目指す社会的な意識や態度である。ここでは具体的な生活の中で、ユニバーサルデザインの考え方や実践事例を理解することができる。

教材

教科書(テキスト)

ユニバーサルデザインの教科書
 図解 高齢者・障害者を考えた建築設計

テキスト以外

ユニバーサルデザイン実践マニュアル・ユニバーサルデザイン事例集100

評価方法

試験40%、提出物30%、授業態度30%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

住宅を取り巻く社会環境や建築技術は日進月歩し、高齢者や障害者の住生活にかかわる関連用具や研究も数多くされている。この講義では、具体的な生活の事例を通して、ユニバーサルデザインの考え方に対する理解を深めましょう。

授業計画

- 1 授業内容の総合説明
- 2 ユニバーサルデザイン(UD)を取り巻く現状(1) 今、なぜUDなのか
- 3 ユニバーサルデザインを取り巻く現状(2) ユニバーサルデザインの原則
- 4 ユニバーサルデザインを取り巻く現状(3) バリアフリーの考え方
- 5 ユニバーサルデザインを取り巻く現状(4) 高齢社会と住居(1)
- 6 ユニバーサルデザインを取り巻く現状(5) 高齢社会と住居(2)
- 7 ユニバーサルデザインを取り巻く現状(6) 高齢社会と住居(3)
- 8 ユニバーサルデザインを取り巻く現状(7) まちのバリアフリー(1)
- 9 ユニバーサルデザインを取り巻く現状(8) まちのバリアフリー(2)
- 10 体験授業 学外施設見学
- 11 ユニバーサルデザインの実践と方法(1) 企業とUD
- 12 ユニバーサルデザインの実践と方法(2) UDがもたらす企業価値
- 13 ユニバーサルデザインの実践と方法(3) ユーザーからみたUDの価値
- 14 ユニバーサルデザインの実践と方法(4) 海外事例
- 15 まとめ

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370015			
科目名	福祉介護論	年次配当	2年次
担当者	米原 あき	開講時期	後 期
所 属	幼児教育保育学科	資格選択区分	ビジネス実務士資格選択必修
授業形態	講義		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

日本における少子高齢社会の現状について学び、高齢者や障がい者についての知識を広げる。

到達目標

日本における少子高齢社会の現状を理解し、高齢期の身体的特徴を捉え、安全で住みやすい環境を理解することができる。

教材

教科書(テキスト) テキスト以外
 「福祉住環境コーディネーター検定試験3級テキスト」(東京商工会議所) 資料・ビデオ

評価方法

定期試験90%、授業態度10%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

障がい者や高齢者が生活の中で不便・不自由を感じていることを、自分に置き換えながら学んでください。

授業計画

- 1 福祉介護論と福祉住環境コーディネーター
- 2 少子高齢社会の現状
- 3 少子高齢社会の現状と課題
- 4 高齢者の生活
- 5 高齢期の特徴①
- 6 高齢期の特徴②
- 7 高齢期に多い病気①
- 8 高齢期に多い病気②
- 9 介護の基本①
- 10 介護の基本②
- 11 高齢者と住環境
- 12 福祉用具の活用
- 13 介護保険
- 14 健康と自立
- 15 福祉に関わる専門職との連携

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370098			
科目名	環境心理学演習	年次配当	2年次
担当者	河村 壮一郎	開講時期	後期
所属	生活学科 住居・デザイン専攻	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

環境心理学の概要を理解し、調査や実験、観察を用いる環境心理学の方法論を学びます。調査や実験の実施とレポート作成が主体になります。

到達目標

環境心理学の多様な領域を理解し、その理論や仮説を実証する手続きを理解します。演習を通じて、調査結果に基づいてレポートが作成できる科学的な態度と技法を身につけます。

教材

教科書(テキスト) テキスト以外
 「教材心理学」 木下富雄 (ナカニシヤ出版)

評価方法

提出物80%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

この授業では実験者や調査者の役割を体験することができます。受講者の環境心理学に対する興味が高まると期待しています。

授業計画

- 1 環境心理学概論
- 2 調査方法の実際
- 3 レポートの作成方法
- 4 大きさの恒常性についての実験
- 5 統計の基礎
- 6 仮説の検証方法
- 7 実験の問題点、追検証の意義
- 8 心理尺度を用いた調査
- 9 調査刺激の作成方法
- 10 実験結果における個人差
- 11 環境に対する心理的評価
- 12 環境内の集団行動についての観察
- 13 観察方法の実際
- 14 観察結果のまとめ
- 15 総括

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370038			
科目名	グラフィックデザインⅡ	年次配当	2年次
担当者	前田 夏樹・池田正晰	開講時期	後 期
所 属	生活学科住居・デザイン専攻・非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

グラフィックデザインⅠでの基礎的・基本的な能力と理解を深め、実習により基礎的な実技と技能を習得して、B1ボードへの作品制作を通し、美術とデザイン活動に必要な表現能力を高める。
また、具体的な商品企画から販売促進を想定したビジュアルデザインを提案する。

到達目標

- ・グラフィックデザインの現場を知り、仕事としてのデザインへの理解を深める。
- ・グラフィックデザインをプロダクトへ展開することで、デザインのもつ幅広いジャンルを理解する。

教材

教科書(テキスト)

テキスト以外

プリント/映像と画像

デザイン関連雑誌などを参考とする。

評価方法

実技30%、提出物50%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

B1ボードなど実習用具は各自が購入して持参します。B1ボードの手作業による制作課題に挑戦し、美しい画面表現を達成する喜びを体験します。楽しい学生生活がデザイン感覚と美とともにあふれ、希望に満ちあふれる意欲的な授業を期待します。またコンピュータグラフィックス技術とも併用して課外に時間を見つけて新しい課題に取り組んで下さい。

授業計画

1	オリエンテーション、授業の概要とテキスト及び準備用具	前田夏樹
2	グラフィックデザインの現場	池田正晰
3	グラフィックデザインの現場	池田正晰
4	グラフィックデザインの現場	池田正晰
5	グラフィックデザインの現場	池田正晰
6	グラフィックデザインの現場	池田正晰
7	家紋について	前田夏樹
8	家紋を用いたプレゼンテーション作品の制作	前田夏樹
9	家紋を用いたプレゼンテーション作品の制作	前田夏樹
10	家紋を用いたプロダクト	前田夏樹
11	家紋を用いたプロダクト	前田夏樹
12	パッケージについて	前田夏樹
13	パッケージ制作	前田夏樹
14	パッケージ制作	前田夏樹
15	パッケージ制作	前田夏樹

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370120			
科目名	プロダクトデザインⅡ	年次配当	2年次
担当者	田上重雄・清水文人・山柘正樹	開講時期	後期
所属	生活学科住居・デザイン専攻・非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

さまざまな企業活動の中で最もドラマティックであり、第三者にとっても関心が高いのは新商品を開発する作業ではないだろうか。日常生活の生活用具や生活空間の分析を基にプロダクトデザインの手法について、具体的なデザイン開発のテーマを設定して物づくりに必要な関連知識から応用技法を学びます。

到達目標

- ・プロダクトデザインに必要な素材の知識と工具器具の操作法や加工技法を習得する。
- ・商品開発に必要なデザイン情報の収集、デザインコンセプトの設定手法、デザイン評価手法フィニッシュワークまでモノづくりを理論的に進めるために必要な知識と技法を習得する。
- ・具体的な開発課題を基にして企画案の作成、設計から試作化に必要な造形作業までのプロセスを理解する。

教科書(テキスト)

「プロダクトデザイン」日本インダストリアル協会／(株)ワークス

テキスト以外

参考書：「アイデアドローイング」中村純正他／共立出版、教材：製図用具、モデリング用品など

評価方法

実技60%、提出物20%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

商品開発に関連することを学んでいる皆さんがもっとプロダクトデザインの知識を持っていれば物を作ることが楽しくなります。与えられた課題をアイデアから商品化までの夢が描けます。積極的に自分のアイデアを具体的にデザインしましょう。自分の使う道具を大切にするとともに、フィニッシュとなる教材は効果が上がるよう研究しましょう。

授業計画

1	オリエンテーション	田上重雄
2	視覚化のためのデザイン手法	清水文人
3	視覚化のためのデザイン手法	清水文人
4	視覚化のためのデザイン手法	清水文人
5	視覚化のためのデザイン手法	清水文人
6	視覚化のためのデザイン手法	清水文人
7	素材・技術を想定したデザイン実習	山柘正樹
8	素材・技術を想定したデザイン実習	山柘正樹
9	素材・技術を想定したデザイン実習	山柘正樹
10	素材・技術を想定したデザイン実習	山柘正樹
11	素材・技術を想定したデザイン実習	山柘正樹
12	自己設定による課題	田上重雄
13	自己設定による課題	田上重雄
14	自己設定による課題	田上重雄
15	自己設定による課題	田上重雄

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370080			
科目名	コンピュータグラフィックスⅣ	年次配当	2年次
担当者	石田 英一	開講時期	後 期
所 属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

これまでのコンピュータグラフィックスで習得した技能をさらに深めた制作、およびMacを扱う能力を養う。コンピュータを使った「ものづくり」とおして、ゼロ（0）から完成させる喜びを味わい、今後の社会生活に活かせる体験をする。

到達目標

Macの基本的な操作方法を理解することができる。Illustratorを使って、作品制作をすることができる。

教材

教科書（テキスト）
未定

テキスト以外

評価方法

実技40%、提出物40%、授業態度20%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

多くのデザインクリエイターの制作ツールとして、実際の現場ではMacが使われています。当科目ではMacを通して「デザインする力」を養い、アイデアを思い通りに表現するにはどのようにすればよいのかを考えるきっかけとして欲しいと思います。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 Macの基本的な操作方法 1
- 3 Macの基本的な操作方法 2
- 4 Macの基本的な操作方法 3
- 5 Macの基本的な操作方法 4
- 6 Illustratorによるトレース 1
- 7 Illustratorによるトレース 2
- 8 Illustratorによるトレース 3
- 9 ロゴタイプ制作 1
- 10 ロゴタイプ制作 2
- 11 ロゴタイプ制作 3
- 12 フライヤー制作 1
- 13 フライヤー制作 2
- 14 フライヤー制作 3
- 15 フライヤー制作 4

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370122			
科目名	WEBデザインⅡ	年次配当	2年次
担当者	石田 英一	開講時期	後 期
所 属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

インターネットの仕組みやWebサイトの作り方を学ぶ。

到達目標

課題を通じて、Webサイトのデザインを制作するための基本的知識を習得するとともに、実際に制作することができる。

教材

教科書 (テキスト)
未定

テキスト以外

評価方法

実技40%、提出物40%、授業態度20%

学生に対するメッセージ

何気なく毎日チェックしているWebサイトがあるという人は多いと思います。どういうサイトなら快適に、何度も訪れて見ることができるのか、それはなぜなのか、というようなところから考えてみたいと思います。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 インターネットの仕組み
- 3 Webサイトのトレンド1
- 4 Webサイトのトレンド2
- 5 ブログ制作1
- 6 ブログ制作2
- 7 情報をつくる1
- 8 情報をつくる2
- 9 企業サイトのデザイン概要1
- 10 企業サイトのデザイン概要2
- 11 企業サイト制作1
- 12 企業サイト制作2
- 13 企業サイト制作3
- 14 企業サイト制作4
- 15 企業サイト制作5

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370104			
科目名	染色・織物	年次配当	2年次
担当者	吉田 公之介	開講時期	後期
所属	非常勤講師	資格選択区分	
授業形態	演習		
単位数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	不可	受入可能人数	—

授業概要

授業は講義を1回程度、あとの時間はイラストボードをフレームに各自デザインした綴れ織りと染色の実習をする。

到達目標

織物の成り立ち、テキスタイルデザイン、工芸について理解する。

教材

教科書(テキスト)
使用しない

テキスト以外
使用しない

評価方法

授業態度、レポート、提出物等により評価する。
授業態度40%、レポート10%、提出物50%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

この授業を通して身近な物作りとしての工芸に興味をもって欲しい。

授業計画

- 1 講義・実習 工芸についてと簡単な織りの説明。織りに使うフレームを作る。
- 2 実習 下絵を考える。織りに使うフレームを作る。
- 3 実習 フレームに経糸を張る。
- 4 実習 下絵を経糸に写しそれにそって織る。
- 5 実習 織り
- 6 実習 織り
- 7 実習 織り
- 8 実習 織り
- 9 実習 織り
- 10 実習 織り
- 11 実習 織り
- 12 実習 織り
- 13 実習 織り
- 14 実習 織り
- 15 実習 織り

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370070			
科目名	ビジネス文書論	年次配当	2年次
担当者	吉田 収司	開講時期	後 期
所 属	非常勤講師	資格選択区分	ビジネス実務士資格選択必修
授業形態	講義		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

「企業は文書主義」企業規模に関わらずビジネス社会では今も昔も文書が中心。FAXやパソコンが発達してもビジネス社会ではファイリングに長けた文書が主流を占めています。企業の中を行き交うビジネス文書の実態を理解するとともに、文章作法のテクニックも学習します。

到達目標

ビジネスにおいて使用される文書の種類と使い方を理解し、ビジネス文書の作成ができる。

教材

教科書(テキスト)

「ビジネス文書の書き方」竹内宏 (監修)
実業之日本社発行 定価1,400円 (税抜)

テキスト以外

安田式「ビジネス文書の書き方」

評価方法

試験80%、実技20%

学生に対するメッセージ (準備学習等)

学窓を巣立ち、実社会に出たとき、諸君は公私にわたり様々な文書を書かなくてはなりません。書く機会もなく、ほとんど目にしたこともないいわゆるビジネス文書。「取引先に提出する注文書、明日までに書いておくように」上司にこう言われたら諸君は一体どうするだろうか?そのときに狼狽しないように、この半年間でビジネス文書の達人になろう。

授業計画

- 1 ビジネス文書とはどんなものか。(必要性とその役割)
- 2 同上
- 3 文書作りのポイント (フォーマットとルール)
- 4 社内文書 (伝達・調整の文書)
- 5 同上
- 6 同上 (報告・提案の文書)
- 7 同上
- 8 同上 (提出の文書)
- 9 実技 (社内文書の作成)
- 10 社外文書 (商取引の文書)
- 11 同上
- 12 同上 (儀礼・社交の文書)
- 13 同上
- 14 ビジネス文書の総括
- 15 実技 (社外文書の作成)

生活学科 住居・デザイン専攻科目 シラバス

370073			
科目名	コミュニケーション論	年次配当	2年次
担当者	吉田 収司	開講時期	後 期
所 属	非常勤講師	資格選択区分	ビジネス実務士資格選択必修
授業形態	講義		
単 位 数	2単位 選択		
科目等履修生ほか受入	可	受入可能人数	若干名

授業概要

サルからヒトに進化すると同時にヒトは二足歩行を覚え、音声器官もそれにつれて発達しました。人類の創生期においても現代においても社会環境を無視してはコミュニケーションは考えられません。食糧の獲得や文化の創造は高度なコミュニケーション技術によって獲得されたことを学習します。

到達目標

「コミュニケーション」について基本的な事項を理解し、自身の人間関係の中で活かそうとすることができる。

教材

教科書(テキスト)

「コミュニケーション学への招待」橋元良明編著
大修館書店発行 定価2,100円(税抜き)

テキスト以外

「From Ape to Adam」
Thames and Hudson 共著

評価方法

試験100%

学生に対するメッセージ(準備学習等)

いじめを苦に子供達はなぜ沈黙の中で自殺してゆくのだろうか? 父親や母親はなぜ我が子を虐待するのか? なぜ夫は妻に暴力(ドメスティックバイオレンス)的なのか? マス・コミの流すメッセージは真実だろうか? 情報化社会の進歩とともに、人と人のコミュニケーションは壊れつつあるようです。今こそ豊かな人間関係を育てるために、コミュニケーションの原点に返って考えましょう。

授業計画

- 1 コミュニケーション概論
- 2 History of Communications
- 3 人はいつ頃、何のためにコミュニケーションをとり始めたのか?
- 4 コミュニケーションの無意識的情報処理とは何か?
- 5 農耕民族と狩猟民族の思想~使う言語によって、ものの見方は変わるだろうか?
- 6 コミュニケーションの協調原則ってどんなこと?
- 7 イルカやミツバチは本当にコミュニケーションをとっているのだろうか?
- 8 ノンバーバル(非言語)コミュニケーションってなに?
- 9 皆でパネル・ディスカッションをやってみよう(テーマの決定とパネラーの選出)
- 10 マス・コミュニケーション入門
- 11 幼児にテレビを見させておけば本当に言葉を覚えるだろうか?
- 12 マス・コミの脅威とロコミの驚異
- 13 マス・コミにおける広告の機能(スポンサーと視聴者・読者のコミュニケーション)
- 14 異文化コミュニケーション
- 15 価値観とライフ・スタイル、異文化と自文化の関係